

## 不安に打ち勝ち(マルコ 4:36-41)

人の心の底、根本には不安が座りこんでいます。それで人々は意識的に、また無意識に不安を埋めようとして、もがいて人生を生きています。そのうち何かの状況に遭遇して、その不安がいろんな形で現われるようになります。ときには恐怖、恐れとして現れたり、ときにはその不安が状況とぶつかることで怒りに現れる場合もあります。また、何かの損得に震えて計算に敏感に走る時もあるし、そのためにそうしたくないと思いながらも嘘をついてしまったりといった反応も見ようになります。そういう中で自分にとって決定的なショックになる出来事によって、その不安というものが脳に刻印されてしまいます。となると不安がその人の体質になり、その段階に行きますと普通に考えたら不安になるような状況ではないのに、それを不安に思い感じるようになります。例えば、天井を見上げていたときに、これが崩壊するんじゃないかとか。普通はそういう不安などありません。普通の人には不安に思わないものがすべて不安を感じる、そういう段階に入って行くようになります。そして、それがエスカレートしていきますと、それから自分自ら不安の世界を作り出して、何もないのに自分で不安の世界を作りその中に入って行くようになります。不安というのはこのようにしっかりと処理しないと、それに打ち勝たないと人生そのものを狂わせてしまうものになります。そのように何もないのに自分で不安という世界を作ってまで不安になるのでなんと大変でしょうか。一般的に不安でないものを不安に思うことを妄想と言います。また、実際には現実にはないのにその不安の世界を作り出すことを妄想と言います。それで不安の奴隷になるしかない状態まで入っていくようになります。なので結局周りがすべて敵だらけになり争いが絶えません。それが嫌なので、結局すべてと断絶してしまい孤立させられて、自分でその孤立を生み出してしまうようになります。本人は非常につらいし苦しいし大変なのですが、もう脳そのものがそのように刻印されるので、なかなか抜け出すことができません。神のみことばの他には脳細胞を変えることはできません。ということで、人生の大きな課題の一つは、不安に打ち勝って平安を味わうようになるということです。その人が一生懸命頑張ったとしても、頭が賢い人間でも、この不安に打ち勝たない限りはそのすべてが逆方向に動いてしまうということも見て分かっていることではないでしょうか。この不安に打ち勝って平安の主人公として勝利の人生を歩むために、何からどういう風に始めればいいのかということ、今日の聖書の箇所を通して確認していきたいと思えます。その第一歩は何かと言いますと、不安に対して間違っただけで刻印されているものを修正しないとイケません。何が不安なのか、不安はどこから始まったのかということ、私たちは全く間違っただけで理解しているのです。聖書を通してそのことを正しく理解していきましょう。

第一に、不安はどこから始まったのかということ、聖書を通して教えられ確認して行きましょう。神様が人を造られたとき、人を他の動物とは違う、神のかたちで造られました。神のかたちというのは、神様が人とともにおられる存在という意味です。すべての万物、宇宙を神様が治めていらっしゃいます。神様の御手が届かないところはどこにもありません。しかし、それと次元が違うのです。神のかたちというのは、神様が人の内側に入って人と一体となってもおられるようになったということです。なんとすごい素晴らしいことでしょうか。創世記 1:27 を見ますと、ご自身のかたちに人を造りましょうと神様がいらっしゃいました。それで神様は人を神のかたちに造られました。それから、その神のかたち、つまり神様が内側にとともにおられるがゆえに、神様から与えられた最高のプレゼントが何かと言いますと、創世記 2:3 です。「神は第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである」。これを安息と言います。神のかたちであるがゆえに、他に何かの条件があるわけではありません。そこで生まれたもの、そこで与えられた最高のプレゼントが平安であり安らぎだったわけです。つまり神のかたちである限りは、本当は不安という概念すらありませんでした。一番最初のアダムとエバには不安という概念がありません。なぜでしょうか。創造主の神様がともにおられるからです。今日の聖書を見ますと、暴れていた波風に向かってイエス様が「黙れ、静まれ」と命じられると、それが静かになりました。この世界を造られた、それを治められる神様がともにおられるから。突風が吹いてくるから不安になるわけではなくて、神様がともにおられるとそういう状況の中でも不安という概念は存在しません。それが本来の平安、安らぎというものだったわけなのです。例えば、アダムが一番最初、安息の主人公として造られたときに、今日の聖書の箇所のような状況に遭遇したと仮定しましょう。突風

が吹いてきた。今日の聖書箇所に出ている弟子たちのように、アダムも不安になって震えていたでしょうか。全くそういうことなどありません。ここからスタートしないといけません。不安はどこから始まったのか。元々、人間には不安という概念がありませんでした。つまり突風が吹いてくるから、私たちのレベルで不安にならざるを得ないと考えられている要素が生じるから不安になる、とついつい当たり前に思っているのですが、聖書を通して確認してみますと、それは真っ赤な偽りなのです。人は神のかたちに造られたので、元々の本来の人間には不安という概念すらありませんでした。安息、平安と安らぎの主人公だったわけです。しかし、この人間が悪魔サタンに騙されて、罪を犯して神様を離れることとなります。つまり、神のかたちが壊れてしまうようになりました。そのときから今までには概念すらなかった不安というものが始まることになりました。創世記3:10にはそのことがこのように紹介されています。「彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました」。一番最初に不安、恐れ、怖いという概念が登場したのはこの場面です。そのときまでは、人間には不安という感情はありませんでした。聖書がそのように真実を教えています。皆さんが今まで不安と平安と安らぎについて思っていたことと合致しているのでしょうか。あるいは全然相反する内容なのでしょうか。違うなと思われたときにそれが恵みなのです。それがメッセージを聞く私たちがなるほどになる瞬間です。なるほどとなることが刻印されます。なるほどになったときに、ならばと決断するようになったときに、皆さんはいやされます。私たちは「なるほど。ならばこうしよう」と思っている、なかなかその通りに実行できる力がないので、ついついがっかりするかもしれません。けれども、そのように決断したその瞬間、皆さんも知らないうちに内側からいやされているということをぜひ覚えていてください。神のみことばの光が皆さんの暗い考えに照らされること以外にいやしの祝福は考えられません。その聖書の神のみことばが、人の不安の始まりは神のかたちが壊れて神様がいなくなって、神様がともにおられる祝福が壊れたそのときから始まった、そこが不安の本当の原因なんだということを迷うことなく教えています。そのときから人間は不安から一歩も逃げられない存在になってしまったので、不安の奴隷の人生を歩くようになります。その不安の奴隷であるがゆえに生まれるものが偶像崇拜というものなのです。もし人間が不安でなければ、神がともにおられる真の安らぎがあれば偶像崇拜は..。人間の手で怖いから作り出したものが偶像というものなのです。どうにかなんとかなるだろうな。拜んでどうにかしようという願望なのです。また不安の奴隷なので、その不安を払拭しよう、させようということで知識を追求して行くようになります。知識そのものは悪いものではありません。しかし、その知識を追求する理由が不安を埋めよう、消そうとする動機からなのです。本来の知識というものは、神の栄光のために許されるものです。その神の栄光のために追い求めていくものなのに、それが不安を消す道具として勘違いされることになりました。不安の奴隷であるがゆえに、富と成功を追求して行くこととなります。富と成功は悪いものではありません。しかし、それは神の栄光のための道具なのです。不安を消すための道具ではありません。しかし、神様を離れて不安の奴隷になってしまった人間は、仕方がなく富を通して不安を消そうと、成功を通して不安を消そうとそうならざるをえませんでした。それがエスカレートしていきますと戦争に走ることにもなります。なぜ戦争を起してしまうのでしょうか。その根底の方には不安があるからです。しかし、これは不安の奴隷として間違ってもがいてることなので、どんなにもがいて知識を追求して、また富と成功を手に入れた、また戦争に勝ったとしても、根本的にその不安は消えることなどありません。これが歴史であり、これがひとりひとりの人生ストーリーというものなのです。これが不安の始まりでした。つまり不安はもう一度申し上げますけれども、今日ずっと皆さんに強調して申し上げるつもりなのですが、私たちが当たり前に思っている不安要素があるから不安になるわけではなくて、神様がともにおられる神のかたちであった人間が、その神のかたちが壊れて神様がともにおられないから不安なのです。そこが不安の始まりだったということをぜひ覚えてください。それで神様は人に真の平安になるための道を備えられました。この不安に打ち勝って、真の安らぎの主人公になる道は一体なんのでしょうか。言うまでもありません。人に不安をもたらした元凶である、つまり、神様を離れるように惑わしていた悪魔サタンに打ち勝たない限りは不安は消えません。だから神様は、一番最初からアダムとエバに約束されました。創世記3:15、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く。不安に打ち勝って真の平安の人生を歩くための道は暗やみの勢力が砕かれることです。そして、人はこの悪魔に惑わされて罪を犯してしまったので、その罪とのろいの勢力、運命から解放されることが不安から出て真の安らぎの主人公になる道なのです。罪のない神の御子が犠牲のいけにえ、子羊となって、罪の代わりに贖いの死を遂げること、それで罪とのろいの運命を砕いて勝利なさること、それ以外に不安に打ち勝つ道はありません。皆さんが今、不安要素と思っ

ているその内容がガラリと変わって落ち着いたからといってそこに真の平安があるわけではありません。もしそれで皆さんが心に平安を取り戻したとなれば、それは偽りの平安で長く続かないものなのです。後ほど出てきますけれども、神様が与えられる平安というものは、世が与えるものとは違うものなのです。不安に打ち勝って勝利する道は、罪とのろいの運命が砕かれて、そこから解放されることです。そのようにしてイザヤ7:14に書いてあるように「処女がみごもって子どもを産むよ。その名を『インマヌエル』と言いなさい」。インマヌエル、神が人とともにおられる。つまり、このインマヌエルこそが不安に打ち勝って勝利する道であり、真の平安の主人公になる道なのです。神様と会うことです。神様と一緒にすることなのです。それ以外に不安に打ち勝って真の平安に預かる道などありません。暗やみの悪魔サタンの頭を踏み砕いて、罪とのろいの運命から解放されて、神様といっしょになる道こそがキリストなのです。キリストは真の王様、真の預言者、真の祭司なのです。キリストこそが不安に打ち勝って、真の平安の主人公になる道です。そのキリストが地上に來られて、このすべてを全うされました。十字架にかけられて、すべてを完了したと宣言され、その証拠として3日目に死の力を打ち破ってよみがえられたイエス様こそ、このキリストだったわけです。主は、生ける神の御子キリストです。イエス・キリストこそが不安に打ち勝って、真の平安の主人公になり、勝利の道を歩むための鍵なのです。イエス・キリストなのです。だからイエス・キリストは、このように不安に怯えている人々に向かって招いていらっしやいます。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」（マタイ11:28）。なぜなのでしょう。イエス・キリストの方に行きますと悪魔サタンの暗やみの力が砕かれて、罪とのろいの運命から解放されるいのちの祝福があり、神様がともにおられる救いの祝福がそこにあるからです。それ以外に不安に打ち勝って真の平安を手に入れる方法などはありません。変な親が心優しい親に変わったら、皆さんに真の平安が戻ってくると思うでしょうけれども、それはこの世の流れであって本当の知識ではありません。そういうことに騙されているから教会に通っていてもいつまで経っても真の安らぎと確信の主人公としてしっかり立つことができないわけです。風が吹いて来ればいつもふらふらと揺れてしまう。それで世の光、やぐらとしての役割、その祝福を全うすることができますでしょうか。何も不安にならないようにと言われても、どこから不安が始まったのかが分かっていないと言われてもなかなか難しいでしょう。だから、神のみことばに耳を澄ませて、耳を傾けて、みことばを自分の心の内側に受け入れようとしないと変わらないのです。そのために神様は毎週礼拝を設けて皆さんを招いて雨が降っていてもメッセージを与えていらっしやるわけです。イエス様はキリストなのです。不安に打ち勝ってまこの神様と出会い、真の安らぎの主人公になるための鍵なのです。だからイエス様はヨハネ14:27いおいてこのようにおっしゃいます。「わたしは、あなたがたに平安を残します。この平安は世が与えるものとは違うんだ」。このキリストであるイエス様を受け入れた人、すなわちその名を信じた者は神の子どもになり、その瞬間、Iコリント3:16「あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることが分かっていないのか」。このキリストであるイエス様を心から信じて受け入れるときに三位一体の神様、創造の神様が元通りにその人の内側に入っていつまでも離れることなく永遠にともにおられるようになり、神のかたちを回復するようになります。だから、この世が与えることとは違う真の平安の主人公になります。

もう一度言います。私たちに安らぎが与えられてその平安の主人公になる。つまり不安に打ち勝って平安の道を歩くということは、私たちが今まで当たり前と思っていたように、不安要素が消えてなくなるからではありません。その勘違いがあるから、私たちは何かがあるたびにお祈りも全部そういう次元のお祈りしかありません。神社とお寺とどこが何が違うのでしょうか。それでは陰しい悪魔サタンが偽りをもって動かしているこの世の中を勝利者として堂々と歩くことは難しいです。不安は、不安要素がなくなるから消えるものではありません。神様と出会い、神様とともにおられる神のかたちを回復するときに不安は消えて、真の平安の主人公になるということをぜひ覚えてください。だから、不安に打ち勝つ勝利というものは、不安の原因を素直に認めるところから始まります。何が不安なのでしょう。例えば、まだイエス様を信じていない未信者の場合に、その人の階級が上なのか下なのかは関係ありません。未信者の場合には、なぜ不安に怯えているのでしょうか。なぜ不安を埋めるためにもがいているのでしょうか。皆さんはどのように思うのでしょうか。どういうふうに見えらっしゃるのでしょうか。なぜどこかの国の大統領は戦争を仕掛けるのでしょうか。様々な理由を取り上げるかもしれません。なぜそんなに不安なのか。核戦争に備えてでしょうか。ミサイルが飛んでくると私たちの国はどうなるか分からないので、先に戦争を仕掛けますよ。大義名分として。全部も

っともな話のように聞こえるかもしれませんが。でも、私たちは知っています。核があるから不安ではありません。本当に神のかたち、神がともにおられる確信を持っている者であれば、株が飛んでも不安にはなりません。それが人間の力である真の平安の正体です。今まで皆さんが当たり前とっていて、それが脳に刻印されているのです。みことばを通してそこを切り替えるように祈りましょう。未信者はなぜ不安がっているのか。なぜ怖がっているのかと言いますと、イエス・キリストといまだに出会っていないからです。違いますか。ならば教会に通っている信者はなぜ不安におびえて、なぜ不安に振り回されているのでしょうか。そうならざるを得ない様々な要素があるからなののでしょうか。だから成長できないのです。今日の短いメッセージではありますけれども、今までの知識を全部覆す内容なので、今までの知識は全部偽りの父によるものだったということを認めないといけません。信者が不安に負けている理由は、イエスはキリストだということが分かっていないからです。今日の聖書の箇所には、イエス様と弟子たちが一緒に船に乗って湖を渡っていました。突然、突風が吹いてきて船が水いっぱいになって沈みそうになりました。皆さんがそこにいたとすればどうなるでしょうか。当たり前不安になるのは当然でしょう。これからはそこを砕かなければいけません。なのに彼らのレベルから見たときに不安になってどうにかしなきゃいけない状況なのに、イエス様は眠っていらっしやいました。それで少し拗ねてイエス様を起こして「こんな状況なのに寝ているんでしょうか。何とかしてくれないのでしょうか」と大騒ぎだったわけです。それが普通で当たり前なのです。クリスチャンでもそのレベルからなかなか逃れることがないのです。そのときイエス様が起き上がって、何をそんなに騒いでるのか。「黙れ、静まれ」と海を叱って静まりました。それから最後に何とおっしゃったのでしょうか。「どうしてそんなに騒ぐのか。どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことですか」。つまり、彼らが不安になっていたのは、突風が吹いてきて船が水いっぱいになって沈みそうになったからではないのです。そこに一緒にいらっしやるイエス様がキリストだということをいまだに明確に信じていないからです。つまり三位一体の神様がともにおられるという祝福が何か全く分かっていないので、何かの状況が起きればそれにいちいち左右されるしかありません。そういう話です。弟子たちがなぜ不安になっていたのでしょうか。皆さんも素直にならないといけません。「えー聖書だから。もしかしてこれは昔の作り話みたいなのでは」と思うかもしれません。到底私たちはこういうことを一度も考えたことがないから。船が沈みそうになれば不安になって恐怖に怯えるということは一ミリも疑うことなく当たり前なのです。私たちでも。でもイエス様は違う話をしていらっしやるのです。皆さん、どういう人生をこれから生きていこうとしていらっしやるのでしょうか。これから残りの人生、特にレムナントの皆さん、今からここを修正しないといけません。世の中には自分が思っているような良いことばかりではありません。いちいちその度、その度、ふらふらする人生を歩くつもりなののでしょうか。未信者の場合はしかたがありません。イエス様を信じると言いながら、教会に通って礼拝を捧げているながら、もちろん親に連れられて無理やり礼拝をしているレムナントもいるでしょうけれども、だから私と関係ないと思っけていても不安が襲いかかってくるということは人を選ぶことがありません。どういう風にこれから生きていくつもりなのでしょうか。しょうがないじゃないか。何がしょうがないのでしょうか。全部覆さないといけません。脳細胞をひっくり返して脳の革命を起こさないといけません。「あっ、違ったんだ」。それがなるほどなのです。なるほど。今までは突風が吹いてきているから、親がおかしいから、学校がこうだから、社会がこうだから、周りの人間がこうだから、私が病気だから等々によって不満だらけで不安になるしかなかったと、そこに逃げていたでしょうけれども、これからは逃げ道がありません。それは不安の理由ではありません。皆さんがイエス様を信じている限りは、皆さんが信じているイエス様、賛美のときにイエス、イエスと言っているそのイエス様がキリストだということが明確に分かっていないから、皆さんが不安になるわけです。イエスはキリスト。イエス様を信じることは、神がともにおられるいのちの祝福なのです。それがよく分かっていないからなんだということを素直に認めるところから不安に打ち勝って勝利することが始まります。素直に認めないといけません。給料が減っちゃうから不安でしょうか。

そして、同じ信者でも本当にイエス様はキリストなんだということを明確に告白し、それを味わっているものを弟子と言います。弟子は違います。ヨセフは奴隷になってしまいました。たぶん不安で苦労する前に神経が麻痺されて死んでいたかもしれません。今までお父さんに可愛がられて家で生活していた者が、いきなりある日突然、奴隷になってしまいました。なんと不安だったのでしょうか。年も十何歳ぐらいの少年なのです。だから、私たちはその状況であれば不安になるのはしょうがないでし

ように思うでしょう。けれども、ヨセフは全く不安になりませんでした。なぜならヨセフは神がともにおられるという祝福が分かっていたのです。イエスはキリストと言う信仰が揺らぐことなくしっかり持っていました。ダビデは死の影の谷を歩く状況に追い込まれるようになりました。普通はそこで「どうしよう」と不安になるのが、恐がるのが、恐怖を覚えることが当たり前でしょう。けれども、「主は私の羊飼い。私には乏しいことはありません。私は恐れることなどありません」と告白します。「この人にいかれてんじゃないか」と思うのが私たちのレベルです。でもこれが弟子なのです。私たちより特別な何かがあったわけではありません。イエスがキリストだと本当に信じるのであれば、つまり不安というものが不安要素から生まれるものではなくて、私たちの内側に神がともにおられないから生まれるものなんだ、悪魔の作品なんだということ認めない限りは信仰者にはなれないのです。ずっと嘘に騙されるしかありません。パウロは言葉に言い表せないほどの苦難の人生をずっと歩きました。刑務所に何回入れられたのかわかりません。皆があの人を死んだと思うほど石に打たれて気絶したという経験もあります。壮絶な人生でした。だから毎日パウロは不安で不安ではない人生を歩くのが普通なのです。でもパウロは全く不安などありません。「私を強くしてくださる方であってどんな状況でも構わない」と言っていたのです。「それはパウロだから特別な話だろう」としつつ私たち思うのです。なぜパウロが信じているイエス様と私が信じているイエス様と違うのでしょうか。同じイエス様なのです。勿体無くないでしょうか。それが神様が今、レムナント教会の私たちに望んでいらっしゃる神の願いなのです。あなたがたが告白しているイエス様とパウロ、ダビデが信じているイエス様と同じイエス様なのだよと。

難しいいろいろなお話は省きます。第一に不安はどこから始まったのか。それを素直に修正しましょう。それで今まで不安にならざるを得ないと当たり前と思って全部言い訳にしてそこに逃げ込んでいたその道を全部ふさぎましょう。違う。イエス・キリストを信じていないからだ、イエスがキリストだということを信じていないからだ。本当にイエスがキリストだと信じている者は創造の神様が、三位一体の神様が、弱い私とともに死の影の谷のようなこの険しい現実の中にもともにおられるわけだから、平安は私のもの、不安はお前のものになるわけです。不安はダビデを殺そうとしていたサウル王のもの。平安は死の影の谷を歩いている、神様が羊飼いである、イエスはキリストである私のものになるわけです。ぜひ皆さんのものにしてください。

結論です。普通に考えると不安になるしかない不安要素、勉強がダメだ。それで不安でしょうか。お金がないな。それで皆不安でしょう。風がガタガタしている。それで不安なのです。体が弱いな。病気なんだ。それで不安なのです。好きな人に振られるとどうなるのか。人から拒絶されることが不安なのです。未来が不透明で不安なのです。本当にそれで不安になるもので、それが不安の要素なんでしょうかということ吟味し素直にぶつけて、今まで不安になるしかないと思っていた不安要素の前で大胆にイエスはキリストと告白しましょう。もはや私にとって不安ではない。神がともにおられるから。そこが明確になったときに、このイエス様の言葉が私の言葉になります。弟子たちもこの植民地のままどうしましょうと不安で不安でしようがなく不安が消えませんか。なぜでしょうか。今までファクトに基づいた当たりの事実だったので、なかなかなかなかそこが壊れないのです。しかし、彼らはイエスはキリストと命がけで従っていた者なのです。ただまだ脳細胞が変わっていないだけなのです。皆さんも安心してください。変わっていないだけなので、これから変わればよいのです。イエス様は彼らにおっしゃいました。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。私たちが当たり前で不安要素と思って不安に覚えている内容に対してイエス様は、うっかりすると冷たく感じるかもしれません。それはあなたがたは知らなくていいよ。神がともにおられるのですよ。御座の祝福があなたがたのものでしょう。ならば Only 聖霊が臨まれるとき、それだけにこだわりなさい。地の果てにまで勝利者になるよ。となったときに今までの不安が全部消えて、その時に祈りに専念するようになります。つまり、不安の要素を消すために祈りに専念するのではなくて、それがもはや不安ではないので一つだけ、聖霊のパプテスマに満たされる、聖霊が私の考えと心と脳細胞とたましいに豊かに満たされるように。聖霊のパプテスマが注がれるように。これだけに絞って祈りに専念します。それが注がれると不思議なことに突風が吹いてきてもへっちゃらになります。首にナイフを刺して「イエス様を信じないで。否定しなさい」と言われても、微笑みながら殺されます。誰も奪うことができない、世が与えることとは違う平安が与えられます。皆さんがその主人公なのです。ぜひ取り戻しましょう。それを回復しましょう。

それで3つのギャグをいつも皆さんに申し上げましたけれども、もう一度このタイミングでそれがぴったり合うなと思って申し上げます。「そんなの関係ない」「どうでもいいですよ」「それがどうした」。この3つを思い出してください。ギャグではありません。それはあなたは知らなくてもいいよ。なぜ知らなくてもいいのでしょうか。今突風が吹いてきているのに、なぜ知らなくてもいいのでしょうか。イエスがそこに一緒にいらっしゃるから。そのイエス様がキリストなのだから、皆さんが信じているイエス様をキリストで皆さんの内側に三位一体の神様がともにいらっしゃるから。話が違うのです。ぜひ不安に打ち勝って勝利し、平和の伝道師として残りの生涯を歩いて行きましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。悪魔サタンは偽りをもって私たちに不安をもたらして、その不安から人生を狂わそうとしています。どうか不安の本当の原因を正しく素直に認めることでイエス・キリストにフォーカスを合わせ、御座の祝福に満たされることに絞って祈ることができ、それで平和の主人公になり、世が与えることとは違う安らぎを味わい、その平和の伝道師として残りの生涯を歩いて行けるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン